

「豊かな人権感覚に基づいた実践力の育成」

～学校・家庭・地域の特色を踏まえた取組を通して～

I 教育概要

- 1 学校教育目標と経営方針
- 2 本年度の努力点と達成のための重点施策
- 3 生徒数
- 4 職員組織

III 実践内容

- 1 人権教育推進会
- 2 道徳教育実践部会
- 3 授業分析・調査分析部会
- 4 授業実践

II 研修の概要

- 1 研修主題
- 2 研修主題設定の理由
- 3 研修のねらい
- 4 研修の内容
- 5 研修組織
- 6 研修の経過

IV 研修のまとめと今後の課題

- 1 成果
- 2 課題



片品村立片品中学校

I 教育概要

1 学校教育目標と経営方針

- (1) 教育目標 「豊かな人間性、生きた学力、強い身体」を磨く生徒
- (2) 目指す学校像 「一人一人が認め合い、輝き合い、さわやかで活力に満ちた学校」
- (3) 目指す生徒像 豊かな人間性、生きた学力、強い身体を磨くために
 - 「昨日の自分を超越しようとする生徒」
 - 「気づき、考え、行動する生徒」
- (4) 目指す教師像
 - 明るく健康で人間性豊かな教師
 - 教育者としての自覚と誇りある教師
 - 【情熱・使命感・自己研鑽（教えるプロ）・高い社会規範意識】
 - 同僚性の高い教師
- (5) 経営方針
 - 全職員が当事者意識をもち、責任と役割の自覚に立った組織的な協働体制（態勢）の確立
 - 生徒と教師間の、豊かな人間関係・信頼関係の確立
 - 「昨日の自分を超越しようとする生徒の育成」を目指した指導の充実

2 本年度の努力点と達成のための重点施策

- (1) 「安心・安全に学べる環境」をつくる
 - 施設・設備の安全管理や交通事故防止の徹底を図る。
 - 地震や火災、不審者進入時の危機管理を徹底する。
- (2) 「確かな学力」を身に付ける
 - 授業の中で生徒一人一人を大切にする。
 - 自主的な学習習慣を身に付けさせる。
- (3) 「豊かな心」を育てる
 - 「片品中学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめのない温かい人間関係を育てる。
 - 道徳教育・人権教育を推進する。
 - 時と場に応じた適切な言動を身に付けさせる。
- (4) 「健やかな体」をつくる
 - 基本的な生活習慣を身に付け、健康の保持・増進に努める気持ちや態度を育てる。
 - 日常生活の中で運動に親しめるようにする。
- (5) 「学社連携・融合の推進（開かれた学校づくりと中高一貫教育の充実）」
 - 積極的な情報発信や家庭、地域との連携・協力による信頼関係・協力態勢の構築
 - 尾瀬高校との連携・協力の充実による尾瀬地域中高一貫教育の推進

3 生徒数

学 年	1 年		2 年		3 年			合 計	
	1 組	2 組	1 組	2 組	1 組	2 組	3 組		
生 徒 数	男	7	7	14	15	15	16	4	78
	女	12	13	8	8	14	14	0	69
	小 計	19	20	22	23	29	30	4	
計	39		45		59			4	147

4 職員組織

職名	氏 名	担 当	教諭	吉野 康弘	2年主任	特別支援員	星野 愛美	3組補助
校長	小野 和好	経営管理	教諭	松井 薫	2年1組	非常勤	松山 英夫	技術科
教頭	根岸 浩文	企画運営	教諭	塚越 佑	2年2組	非常勤	金子 友美	美術科
補佐事務長	千明 芳夫	学校事務	教諭	青木 理絵	3年主任	非常勤	萩原 裕子	家庭科
教諭	尾崎 和子	教務主任	教諭	津久井聡樹	3年1組	SC	青木美穂子	教育相談
教諭	須田 秀昭	1年主任	教諭	石井 宏祐	3年2組	ALT	BuhayJorell	英語指導助手
教諭	阿部 尚人	1年1組	教諭	原 雄規	3年副担	公仕	須藤 松子	用 務
教諭	藤井 香穂	1年2組	養護	真船由美子	保 健	公仕	千明 太郎	学校施設
教諭	中島 諒久	3組担任	特別支援員	笠原まき江	病弱補助			

Ⅱ 研修の概要

1 研修主題

研修主題 「豊かな人権感覚に基づいた実践力の育成」

副主題 ～学校・家庭・地域の特色を踏まえた取組を通して～

2 研修主題設定の理由

片品村は、一昨年度より文部科学省委託の人権教育総合推進地域事業を実施しており、村の人権教育の研究主題を「豊かな心を育む人権教育の推進」副主題を「～学校・家庭・地域が連携した取組を通して～」として研究を進めている。本校の学校教育目標は「豊かな人間性、生きた学力、強い身体を磨く生徒」であり、目指す生徒像を「昨日の自分を超越しようとする生徒、気づき考え行動する生徒」としている。これを受け、研修主題を「豊かな人権感覚に基づいた実践力の育成」副主題を～学校・家庭・地域の特色を踏まえた取組を通して～とし、目指す生徒像を「互いのよさを認め、支え合うよさを求めて考え行動できる生徒」として研修に取り組んでいる。

本校の生徒は、明るく全体的に真面目で、落ち着いた学校生活を送っている。授業や係、委員会活動、毎日の清掃活動など何事にも周りと協力しながら一生懸命に取り組むことができる。与えられた課題は誠意をもって成し遂げられ、授業や普段の生活においても善悪の判断をしっかりとつけられる生徒たちである。これまでの取組により、人権に対する見方や考え方が広がってきており、委員会活動では生徒発案による人権に関わる取組も定着してきている。しかし、友だちとの関わりの中で消極的になったり、正しいと思ったことをなかなか行動に移せなかったり、他人任せになり周りに流されてしまったりする場面もしばしば見受けられ、実践力にまで繋がっていないことが推察される。

家庭・地域の特色の象徴である本校PTA活動は、「子どもたちをPTAで育てよう」の目標のもと、学校教育に大変協力的である。保護者参加のあいさつ運動や環境整備活動など、家庭と学校が連携した多くの活動が設けられている。これらの場合は、生徒にとって、学校で学んだ豊かな心（人権感覚・心情・実践力）を補充・強化する絶好の機会である。その他に、委員会活動を中心とした「ペットボトル回収、花いっぱい運動、各種募金」等の活動も、保護者・地域の協力なくしてはできない活動である。

今年度は文部科学省委託の人権教育総合推進地域事業3年目にあたり、これまで行ってきた人権教育の充実期である。人権的視点を重視した道徳の授業のより一層の充実を図るとともに、これまで積み重ねてきた人権教育に関わる様々な活動をより計画的・系統的に実施していく。そこを基軸にして、学校生活の人権に関わる諸課題を自ら発見させ、一人一人の判断と行動をもって解決を図っていく人権感覚・判断力・実践力を醸成していきたい。学校・家庭・地域の特色を踏まえ、校内研修において共通理解を図り、家庭や地域と連携しながら研修を進めていくことは、生徒の人権感覚を磨き実践できる生徒を育てるために効果的な研修であり、本校の教育目標「豊かな人間性、生きた学力、強い身体を磨く生徒」を達成する上でも、大切な研修になるものと考えられる。

3 研修のねらい

学校・家庭・地域の特色を踏まえた取組を通して、豊かな人権感覚に基づいた実践力のある生徒を育てる。そのために校内研修において、人権教育を中心とした取組の共通理解を図り、道徳の授業の充実、生徒主体の活動の推進を図る。常時指導や直接的指導

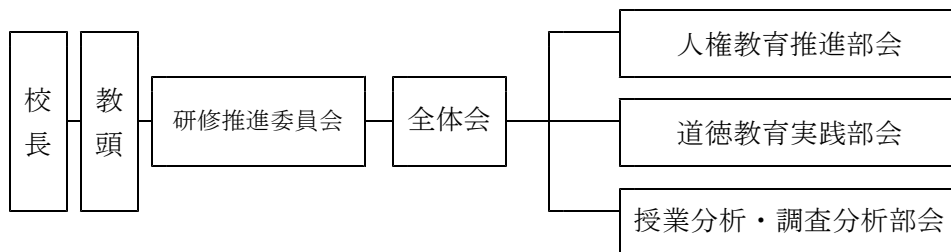
を系統的・計画的に行うことにより生徒の人権感覚を磨き、諸課題に主体的に関わろうとする生徒の育成を目指していく。

4 研修の内容

- 目指す生徒像「互いのよさを認め、支え合うよさを求めて考え行動できる生徒」
- ・2-(2)思いやり2-(3)友情・信頼4-(3)正義・公正公平を重点項目とした道德教育の充実。
- ・人権教育を意識した授業作りの理解及び授業実践（一人1授業）。
- ・生徒会活動、学校行事、PTA活動等における人権教育の計画的実践。
- ・自ら課題を発見し解決を図る実践力を育むための生徒主体の活動の推進。

5 研修組織

	組 織	構 成 員	研修推進上の役割や主な研修内容
研 修 組 織 図	研修推進委員会	学校長 教頭 研修主任 各学年研修担当	○研修計画の立案 ○全体会に提案する内容の協議 ○研修の課題の焦点化 ○授業実施計画の作成
	全体会	全職員	○研修内容の確認
	人権教育推進部会	○津久井 石井 中島 吉野	○生徒会活動における人権教育の充実を目指した指導の計画改善 ○人権集中学習の充実に向けた指導の計画・実践 ○人権だよりの発行 ○家庭・地域との連携に向けた取組の計画
	道德教育実践部会	○藤井 阿部 青木 塚越	○各学年の道德主担当 ○年間計画の見直し、学校行事等との連動に向けた授業の開発提案 ○人権（道德）アンケートの結果を受けた授業改善
	授業分析・調査分析部会	○松井 須田 尾崎 原	○指導案検討、授業研究会の推進 ○人権（道德）アンケートの実施と分析



6 研修の経過

指は指導案検討 授は研究授業・授業検討会 □は校内研修，○は部会研修

月日	内 容	研 修 の 視 点
4. 4	1 本年度の研修について	・前年度の引き継ぎ事項の確認
4. 14	2 研修主題・副主題の共通理解	・研究主題・副主題に関する共通理解を図る

4. 28	<p>3 本年度研修計画の確認 指導主事要請訪問Aに向けて</p> <p>①部会別研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> 提出用研修計画書の検討と最終確認 指導案の形式について 各部会の組織作りと研修内容決定及び計画 NR Tの結果分析
5. 12	<p>4 指導主事訪問A 全職員授一 道徳 (1-2: 藤井教諭) (2-1: 松井教諭) (3-2: 石井教諭)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修に基づく授業実践 研修についての助言
6. 2	<p>5 A 訪問指導助言の確認</p> <p>②部会別研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研修についての助言と研修の方向性の見直し 部会別研修内容の見直し
6. 30	<p>6 B 訪問・人権教育総合推進地域事業成果発表会に向けて 心肺蘇生法講習会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後の予定の確認
7.	<p>③部会別研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> HUMANの分析 部会ごとの実践の振り返りと改善
8.	<p>④部会別研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育総合推進事業成果発表会指導案検討
9. 1	<p>7 指 B 訪問に向けて</p> <p>⑤部会別研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> B 訪指導案検討 2 学期の部会別実践の確認 一人 1 授業の報告 学年別道徳・学活の指導案の作成 研修内容に基づく研究授業・授業検討会
9. 29	<p>授一 理科 (1-2: 須田教諭)</p> <p>8 B 訪問に向けて</p> <p>⑥学年別研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参観の観点の確認・部会別質問事項の確認 人権教育総合推進事業成果発表会指導案検討
10. 2	<p>指導主事要請訪問 B</p> <p>授一 道徳 (1-1: 阿部教諭)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研修についての助言と研修の方向性 の見直し
10. 17	<p>人権教育総合推進事業成果発表会</p> <p>授一 道徳 (1-2: 藤井教諭) (2-1: 松井教諭) (3-1: 津久井教諭)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2 回目道徳アンケートの結果分析 研修に基づく授業実践報告 研修についての助言と研修の方向性 の見直し
10. 20	<p>授一 数学 (2-2: 吉野教諭)</p> <p>9 B 訪問の助言指導の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人 1 授業の報告
11. 10	<p>⑦部会別研修</p> <p>授一 理科 (2-1) 中島教諭</p>	<ul style="list-style-type: none"> 部会ごとの実践の振り返りと改善
12. 1	<p>10 研修主題・副主題の修正</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研修経過に沿った研修主題・副主題 の見直し
12. 22	<p>11 ⑧部会別研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実践してきた全体、部会研修のまとめ
1. 19	<p>12 紀要「校内研修の歩み」、</p>	<ul style="list-style-type: none"> 紀要や研究物の作成確認と分担

		「片品の教育」について	
3.2	13	紀要原稿の検討、本年度のまとめ及び来年度の研修の検討 ⑨C R Tの結果分析、年間指導計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の研修の成果と課題を確認 ・来年度の研修の方向性について検討 ・C R Tの結果分析と活用 ・部会別年間指導計画の見直し
3.24	14	引き継ぎ事項の確認 紀要の完成	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度へ向けての引き継ぎ事項 ・来年度の研究主題、副主題の原案作成 ・本年度のまとめ

Ⅲ 実践内容

1 人権教育推進部会

(1) 部会のねらい

本部会は、生徒が人権を意識した取組を主体的に実践していけるよう、啓発していくことをねらいとしてきた。本年度は、片品村の人権教育総合推進地域事業の3年目であり、1年目、2年目の実践を踏まえ、今まで行われてきた取組の継続・充実・改善を図ってきた。

(2) 実践内容・実践方法

① 生徒会活動における人権教育の充実を目指した指導の計画・改善

- ・昨年度までの取組を継続し、定期的に取り組状況を確認する。また新たな取組の実践を呼びかける。

の

- 生徒会本部・・・あいさつ運動、人権に関わる生徒集会
- 福祉委員会・・・募金運動、ベルマーク回収
- 環境委員会・・・環境奉仕日、花いっぱい運動
- 給食委員会・・・牛乳パックリサイクル、残量調査
- 保健委員会・・・エコキャップ回収

(生徒会本部によるいじめゼロ宣言)

- 図書委員会・・・人権に関わる本の紹介
- 広報委員会・・・各クラスの行事の意気込みの紹介



(環境委員会 花言葉の紹介)

② 人権集中学習の充実に向けた指導の計画・実践

- ・7月にミニ人権週間を計画。全校生徒が人権作文を書く前に、利根教育事務所から講師を招き、人権についてゲームなどを通して考える授業を行う。

・11月の人権集中学習の計画。

(ミニ人権週間の様子)



～生徒の感想（アンケートより一部抜粋）～

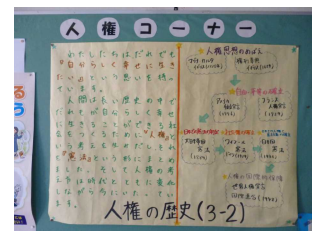
- 人権と聞くと気が重くなってしまいましたが、今回の授業を通して、人権について楽しく学ぶことができました。
- 何気なく生活している中で、気づかないことがたくさん見つかった。
- いろいろな人権につながるゲームができて楽しかった。私も他人に偏見をもってしてしまうことがあるので、考え方を改めて気を付けていこうと思いました。
- 刷り込みはジャンケンだけでなく、人のイメージや自分の嫌いな人などを決めてしまう一番の原因になるのかなと考えました。やはり人の個性などを認め、みんな同じなんだと考えなければならないなと思いました。
- 自分と違う意見の人の気持ちも考えながら授業に参加できました。とてもわかりやすかったし、とても楽しかったです。
- 人権と聞くと”恵まれない”という言葉が多く聞かれるのですが、こんな身近なことでもちゃんとした人権につながって、一人一人の気持ちがあってすごいなと思いました。

③ 人権教育だよりの発行・人権コーナーの充実

- ・人権教育だよりを毎月1号以上発行。
- ・1階廊下にある人権コーナーを学期ごとに各学年で担当する。
 - 1学期・・・世界のありがとう、人権の歴史（3年）
 - 2学期・・・Thank you ボード（1年）

④ 家庭・地域との連携に向けた取組の計画

- ・人権教育だよりの回覧。
- ・授業参観で保護者から感想をもらい、通信等で紹介する。



(各学級が担当した人権コーナー)

(3) 成果と課題

継続して取り組んできたことで、生徒が人権を意識して様々な取組を主体的に行うことができた。また、花いっぱい運動では花言葉の掲示を行ったり、給食委員会が残量調査によって給食を残さないように呼びかけたり、各委員会で新たな取組を考え、実践することもできた。それらの取組を人権教育だよりで紹介することにより、さらなる啓発につながったと考える。家庭・地域との連携という点では、授業参観だけでなく、様々な活動について保護者や地域からの声を紹介することができれば、より連携の充実が図れたのではないかと考える。

2 道徳教育実践部会

(1) 部会のねらい

本部会は、年間計画の見直し、道徳アンケートの結果を受け、よりよい授業の開発や提案を各学年のリーダーとして行っていくことをねらいとした。今年度は



特に学校・家庭・地域の特色をふまえた取組として、学校行事と関連させた授業・家庭と連携した授業の開発に努めた。

(2) 実践内容・実践方法

①学校行事と関連させた道徳の授業

1年では体育祭・合唱コンクール、2年では合唱コンクール、3年では体育祭

は合唱コンクール、3年では体育祭



(体育祭の様子)

(合唱コンクールの様子)

②家庭との連携

家の人にアンケートをとり、それを導入や終末で活用する。また、道徳の授業の内容を通信に載せ、家庭から返信をもらう。

1年 Thank you board

→思いやりの授業との関連で普段なかなか言えない感謝の気持ちをカードに書いて表した。学年・全校で掲示。生徒を通じて保護者も参加。
(Thank you board)

2年 応援メッセージ

→合唱コンクール前に保護者に応援メッセージを書いてもらい、授業で活用した。

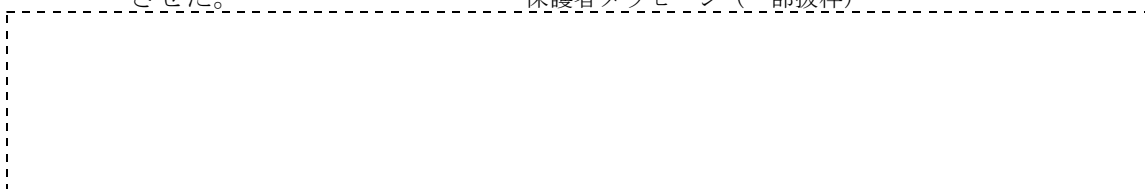


(応援メッセージ)

3年 保護者メッセージの活用

→仲間とのつながりについての授業で、保護者に友人に関するエピソードや考えを教えてもらい、それを聞かせることで、これからの仲間とのつながりを想像させた。

保護者メッセージ (一部抜粋)



学生の頃の友達はかけがえのないものです。泣いたり笑ったり悩んだり、思い出になります。大人になってもそんな友達・仲間は忘れる事なくずっと続いていくと思います。大事にして下さい。環境がかわって、新しい出会いがこれからたくさんあると思います。いつも気の合う仲間だけではなくなると思います。どんな人ともうまくつきあっていける様になってほしいと思います。

喧嘩する程仲が良いと言いますが、実際に衝突するからこそ、相手の気持ちが分かり理解し合えて、お互いの絆が深まり、友達から友情に変わる事もあります。まだ中学生なので、仲間の大切さは余り理解出来ないと思いますが、いずれは大きな財産となっていくはずで、これから先、まだまだ沢山の友と出会う事が出来るので、その財産が宝の山となるように、相手の気持ちが分かり信頼してもらえ、存在になってもらいたいです。気楽に何の話でも出来る仲間が大事ですよ。

(3) 成果と課題

各学年の道徳教育のリーダーとして、道徳教育充実のための呼びかけをすることができ、各学年で一つ以上、学校行事と関連した道徳授業を行うことができた。また、家庭との連携では必要に応じてアンケートやメッセージをいただいたり、道徳の授業の内容や生徒の感想を学級通信において積極的に伝えることができた。行事との関連や家庭との連携を図ることにより、生徒が意欲的に授業を受けていた。普段の生活において、道徳教育に関連することはたくさんある。特定の行事に限ることなく、常に生徒の実生活と結びつけた授業を行っていくことが必要と考えられる。今後も家庭との連携を密にし、生徒が道徳の授業で学んだことを日々の生活に生かしていけるように工夫していきたい。

3 授業分析・調査分析部会

(1) 部会のねらい

本部会では、一人1授業とその後の授業研究会を日々の授業実践に生かし、主題の達成、教科のねらいの達成を目指すことをねらいとして活動した。また、人権教育総合推進地域事業の指定3年目ということで、継続的に人権アンケートを実施し、結果を分析した。

(2) 実践内容・実践方法

○一人1授業・授業研究会

昨年度に引き続き、今年度も職員を3つのグループに分け、授業者の所属するグループの構成員は全員授業を参観することとした。時間割を調整してもらうことにより、管理職や都合のついた職員も含め、多くの職員が授業を参観することができた。

・授業研究会の方法

付箋を用いたKJ法・マトリクス方式で行った。視点に関する成果をピンク、課題を水色の付箋に記入し紙面にまとめ、それをもとに授業研究会を行った。授業研究会では話題を授業の視点にしぼり、意見交換を行った。

- (1) ねらい 真の思いやりとは何かに気付き、相手のことを真剣に考え行動しようとする態度を養う。
- (2) 準備 資料、ワークシート、筆者の写真、ユニセフのロゴ画像、挿絵、事前アンケート
- (3) 人権教育の視点
○実践力：真の思いやりとは何かに気付き、状況に応じて行動していこうとする。
- (4) 展開 (◎主発問 ○ワークシートに記入させる発問)

過程	学習活動と主な発問	時間	予想される生徒の反応	指導上の留意点・支援
導入	1、筆者について知っていることを発表する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・CMで見た ・徹子の部屋 ・世界ふしぎ発見 ・有名人（タレント） ・ユニセフ 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者について知っていることを発表させるとともに、筆者がユニセフの活動をするきっかけとなった話だということを伝え、資料についての興 ・関心をもてるようにする。 ・ユニセフについて触れ、世界の子どもたちのために活動している団体だということを知らせる。
展開	2、資料を読み、相手を思いやるとはどのようなことなのかを考える。 ○発問1 赤い松葉杖の女の子は「私」の何もない足（奇跡的に治癒）を見てどう思っただろう。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・いいなあ ・なんであの子だけ ・うらやましい ・ずるい ・私も治るかもしれない ・自分の姿をみると女の子が傷ついてしまう。 ・自分だけ治ってしまって申し訳ない。 ・気まずい。 ・隠れるか隠れないか。 ・相手に向き合っているかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は思いやりについて考えていくことを伝える。 ・重い病気だということを確認することで、「女の子」の気持ちに寄り添わせるようにする。 ・「私」と「女の子」の立場を比較することで「私」の気持ちを考えられるようにする。 ・「私」なりの思いやりであったことを確認し、「私」の気持ちに共感させることで発問3につなげる。 ・「私」と父の思いやりに対する考え方の違いに気付かせることで、発問4で真の思いやりとは何か考えられるようにする。
	○発問2 「私」が赤い松葉杖の女の子が見えると走って横道に隠れたのは、どういう気持ちからでしょう。	5		
	○発問3 「私」の考える思いやりと父の考える思いやりにどのような違いがあったのでしょうか。	10		
		10		

	<p>◎発問4 本当の思いやりとはどのようなものでしょう。</p> <p>3、自分自身を振り返る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを伝えるか伝えないか。 ・相手のことを真剣に考えて行動すること。 ・思いやりに対する考え方が変わったな。 ・これからは思いやりを行動に表せるようにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から出た意見を「相手のことを真剣に考えること」と「行動すること」の2点に着目して整理するようにする ・事前にとったアンケートの内容を知らせるのみとし、心の中でそれぞれが自分自身を振り返ることができるようにする。
<p>終末</p>	<p>4、本時の感想を書き、発表をする。</p>	<p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考えるのが大切だと思った。 ・これからは相手の気持ちを考え、行動しようと思う。 ・これまでの考えていた思いやりは本当の思いやりではなかったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業で考えたことをもとにワークシートに感想を書かせ、本時の道徳的価値の内面化を図る。

評価

生徒一人一人の心の中にある「思いやりの心」を引き出し、相手のことを真剣に考え行動しようとする気持ちを高めることができたか。

(5) 授業を終えて

導入で作者である黒柳徹子さんに興味を持たせることができ、最後まで授業に集中して考えることができていた。中心発問でねらいに迫るためにどのような展開にしていけば良いか、よりよい発問が見つからずに悩んだが、他学年に同じ授業を行ってもらったり、多くの先生方の意見をいただいたりしたことで自信を持って授業を行うことができた。「私」の考える思いやりと「父」の考える思いやりの違いを考えさせる場面では、板書をするとき「私」と「父」の考えを分けて書いたことで、生徒たちの考えを整理することができ、中心発問「本当の思いやりとは？」に繋げることができた。ワークシートの感想欄には「これからは相手のことを一番に考え、行動していきたい」ということを多くの生徒が書いており、ねらいが達成できたのではないかと考えられる。

(6) 成果と課題

導入で思いやりについて考えることを伝え、挿絵を用いながら「私」「女の子」「父」のそれぞれの気持ちを考えさせたことによって、中心発問に向かってスムーズに流れる授業となった。感想を見ると、相手のことを真剣に考え行動しようとする態度を養うことができたと考える。しかし、一方では生徒が「本当にこの考え方で良いのだら

うか」と再考するための発問や、友達の意見を聞いて自分の考えを深める場面が見られない展開となってしまった。ペア学習・班活動を効果的に取り入れ、一人一人の生徒がより積極的に授業に取り組める工夫をしていきたい。

実践例 2 (第2 学年)

道徳学習指導案

1 本時の学習

- (1) ねらい 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえようとする意欲を高める。
- (2) 準備 事前アンケート、資料プリント、ワークシート、A3ホワイトボード、ペン
- (3) 人権教育の視点
 ○感性：くだもの屋夫婦の善意に対して感謝することの大切さを実感する。
 ○実践力：自分の身の周りの人の善意や支えに対して感謝し、それにこたえようとする事ができる。
- (4) 展開 (◎主発問 ○ワークシートに記入させる発問 ㊦補助発問)

過程	学習活動と主な発問	時間	予想される生徒の反応	指導上の留意点・支援
導入	1. 事前アンケートの結果を知る	5	<ul style="list-style-type: none"> 友だちにノートを見せてもらい、ありがとうと言った。 親に忘れ物を届けてもらったが、特に礼は言っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいの第一段階である「感謝」の心情はほぼ持っていることを意識づけるために、感謝した相手やその人数が記入してある表を紹介する。
	2. 資料を読み、考える ○発問1 夜道を歩く少女は、くだもの屋のあかりを見てどんな気持ちになったか。	5	<ul style="list-style-type: none"> 心強い気持ち なぜ明かりがついているのだろう。 明日も練習を頑張ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料は当日の朝配布して範読を済ませておく。授業内では話の流れを簡単に整理する。 夜道を歩く少女の不安な気持ちをとらえられるように、日頃の体験を想起させる。 ㊦夜道を歩いたことはある

展
開

○発問2

「この店のあかりがあんなにあたたかく見えたのは、当然だったと思う」とあるが、なぜそう思ったか。

◎発問3

あかりが自分のためについていたと知ったとき、少女はどんな気持ちになっただろうか。その時の気持ちをくだもの屋宛の手紙として書いてみよう。

3. 自分自身を振り返る

○事前アンケートを見直し、記入した「親切にしてもらって、自分はどうしたか」の部分、相手の気持ちにこたえるにはどうしたらいいか考え、再度記入し、日常生活でどのように感謝の気持ちを表していけばよいか考える。

8

- ・自分のことを考えて親切心でつけてくれた、くだもの屋の温かい気持ち。
- ・夫婦の優しさでそう見えた。

15

- ・①部活で帰りが遅くなったとき、私のために店のあかりをつけておいてくれてありがとうございます。本当に心強かったし、それがわかったとき嬉しく思いました。

12

- ・相談に乗ってもらって嬉しかったので、自分もその子や、他の困っている子の話を聞いてあげるようにする。
- ・応援してくれている親に喜んでもらえるよう、レギュラーで活躍できるように毎日の練習を頑張りたい。

か。

・場面を思い出すことができるよう、くだもの屋夫婦があかりをつけていた理由を確認させる。

・「明るく」ではなく「あたたかく」見えたことや「当然」と感じた理由を問いかけることで、少女のくだもの屋への感謝の気持ちの高まりに気づかせる。

・「行為に対する感謝(①)」と「行為を受けたことに対して表そうとした思いや考え(②)」を視覚的に確認できるように、①段階までの生徒、②段階までの生徒両方の意見を A 3ホワイトボードに記入させ、黒板に貼って確認する。またその際に、2種類をわけて貼ることで違いに気づかせる。

・②段階まで記入できた生徒がいない場合㊦あかりをつけておいてくれたくだもの屋の気持ちに、どうしたらこたえられるか。

㊦「真の感謝」「1つ上の感謝」とは何か。

㊦「ありがとう」よりもいい感謝の方法はあるか。(元々「真の感謝」ができている生徒に)

㊦更に深い感謝の形はあるか。

・さらに書ける場合は、また他の相手への感謝を書き加えさせる。

・発表の際には、事前アンケートからの変容がわかるよ

			う、最初に記入した部分から発表させる。
終末	<p><u>4. 感想を書く</u></p> <p>○本時の授業で何を学んだか感謝について何を感じたかを記入する。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ「ありがとう」という気持ちや言葉だけでなく、「感謝」を言葉や行動で表すとより相手に伝わるのだな、と思った。 ・これから誰かに親切にしてもらったりしたら、感謝の気持ちを伝えて恩返しをしていきたいと思った。

評価 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえようとする意欲を高めることができたか。

(5) 授業を終えて

今回の授業では、第一段階である「周囲の支えに対して感謝の気持ちをもつこと」、また「それについてこたえようとする」という一歩先の感謝をする意欲を高めようと考えた。資料を読み、全員で「一歩先の感謝」について考えた後、アンケートで自分が記入した「してもらったこと」に対して、「今ならどうするか」という点を記入した。事前アンケートの時点では、大半の生徒がしてもらったことに対して感謝の気持ちをもつのみであったが、最終的には全員が一歩先の感謝を意識して、相手にしてもらったことにこたえる意欲を高めることができた。

①あなたは、普段誰かに何かしてもらい感謝したことがありますか。その経験について教えてください。※いくつでも可能

誰にもらった？	何をもらった？	それに対してどうした？
・	・	・
・	・	・
・	・	・

(6) 成果と課題

成果としては、事前アンケートに記入した内容を見直し、今の気持ちを再度記入したことで、生徒を変化させるきっかけを作ることができた。物語資料を、より自身の立場に置き換えて身近に感じさせるという点でもこのアンケートの実施は有効であったと考える。

課題として、主発問で、「行為を受けたことに対して表そうとした思いや考え(②)」の段階まで記入できる生徒がなかなか出なかった点があげられる。補助発問をしても、意図する記述を引き出すことが難しく、時間がかかってしまった。反省点として、発問が「どんな気持ちになっただろうか」というものだったため、②段階まで出なかったのではないかと意見をいただいた。発問の仕方で生徒の意識が変わるため、生徒の思考の流れを考えしっかり工夫することが必要だと感じた。また、ホワイトボードに代表生徒が記入する時間が待ち時間として長くかかってしまった点もあげられるが、こちらは近くの席の生徒同士で手紙の読み比べをする等の活動が考えられる。

実践例3 (第3学年)

道徳学習指導案

【育てたい能力・態度】

- 感性：人とのかかわりの大切さ、仲間とのつながりの大切さに気付く。
- 実践力：仲間の良さを認め、仲間とのつながりを大切にしていこうと考えることができる。

1 本時の学習

(1) ねらい

その場だけの関心や自分に都合のいい相手とだけでなく、友達の視点を広げ、仲間とのつながりを大切にしていこうとする心情を養う。

(2) 準備

資料プリント、ワークシート、保護者からのメッセージ

(3) 人権教育の視点

- 感性：人とのかかわりの大切さ、仲間とのつながりの大切さを実感する。
- 実践力：仲間の良さを認め、仲間とのつながりを大切にしていこうと考えることができる。

(4) 展開 (◎主発問 ○ワークシートに記入させる発問 ◦補㊦補助発問)

過程	主な学習活動と発問	時間	予想される生徒の反応	指導上の留意点・支援
導入	<p>1. 自分にとって友達とはどんな人か考える。</p> <p>○発問① あなたにとって友達とはどんな人ですか。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも一緒にいる仲間。 ・何でも相談できる人。 ・話が合う仲間。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先入観のない状態で考えさせ、ワークシートに記入させる。
展開	<p>2. 資料を読んで、「友達の間口を～大きな意味がかくされている」について考える。</p> <p>発問② 筆者が考える「『僕らが想像している』友達」とはどんな意味でしょう。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも一緒にいる人。 ・今友達だと思っている人。 ・狭い意味。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味を理解できるように、簡単にイメージを伝える。 ・友達の概念が狭いことを感じさせるために、生徒からあがった意見を発問①と並べて板書し、考えが近いことを確認する。
	<p>◎発問③ 「友達の間口をさらに大きくとらなくてはいけない」とはどういうこと</p>	20	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも一緒にいる人だけが友達ではない。 ・後になって気付く友達も 	<ul style="list-style-type: none"> ・②で広い意味を記述している生徒の意見も尊重するため、板書の枠は点線で囲む。

1	<p>でしょう。</p> <p>④「大きな意味がかくされている」と気付いたのはどうしてでしょう。</p> <p>④間口を大きくとった「友達」の中にはどんな人が入りますか。</p> <p>④その人たちのことをどんなときに友達だなと感じましたか。</p> <p>3. 親が考える友情についてのメッセージや体験談を聞き、これからの仲間とのつながりを想像する。</p>	10	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人になって気付いた友達がいたから。 ・クラスメート。 → 体育祭で応援してくれた。 ・学年の仲間。 → 修学旅行で一緒に楽しく過ごした。 ・部活動の先輩・後輩。 → 辛い練習も励まし合った。 ・いつも一緒の仲間以外も大切にしなければならない。 ・同じ時間を過ごした仲間はみんな友達。 ・1つ1つの出会いを大切にしなければならない。 ・これからできる友達も、今いる友達も、ずっと大切。 ・親も筆者と同じように考えているのだな。 ・仲間とのつながりって大切なのだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の広がりイメージしやすくするために、板書する位置を工夫する。 ・自分を振り返って仲間の良さ、大切さを感じられるように、出された意見に対して、その人たちのことを「友達」だなと感じたことはないか考えさせる。 ・広い意味での友達の良さを感じさせた後、改めて発問③を考えさせる。 ・事前に集めた保護者からのメッセージを読み、仲間とのつながりの良さ結びつける。
終末	<p>4. 本時の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業を通して、感じたこと、学んだこと、今後に生かしたいことなどを記入する。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで友達だと思っていた人でも友達なのだった。 ・いろいろな出会いを大切にしたい。 ・みんなとこれからもずっと友達でいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子に応じて、感想を教師が紹介する。

評価

広い視点で友達を考え、仲間とのつながりを大切にしていこうとする気持ちが高まったか。

(5) 授業を終えて

中心発問が文章の読み取り程度になってしまうことが予想されたので、補助発問を挟むことで、仲間の良さを感じた経験から、大きい意味での友達も大切にしていこうという気持ちを持たせたかった。言い回しが難しく、うまく伝わらなかった部分もあったが、生徒は友達の大切さまでよく考えていた。先輩後輩についての意見を書いていた生徒を意図的に指名したが、こちらの意図が伝わらなかったため、同級生のみつながりを考えただけになってしまった。しかし、親からのメッセージによって、中心発問によって捉えた価値を、より生徒に感じさせることができたと思われる。生徒の感想を見ると、「一人一人が大切な仲間」、「まわりにいつも助けてもらっているから、チャンスがあれば助けてあげようと思った」など書かれていたので、ねらいが達成できたと思われる。

(6) 成果と課題

保護者からメッセージをもらうという形で家庭と連携した取組を行うことができた。また、内容も良く、中学校当時の経験も含まれているため、メッセージによって子どもたちの顔つきも変わる結果となった。少し難しい発問も、板書とワークシートの図でイメージさせることによって、考えることができていた。課題としては、感想を書いて終わりにしてしまった点があげられる。時間がなくて一人か二人程度になっても、感想を紹介して共有できれば良かった。この資料の内容から、テーマ発問としてより多様な意見を出させるためには、早めに資料から離れて意見を出させるという方法も考えられた。

IV 研修のまとめと今後の課題

人権教育総合推進地域事業3年間の成果と課題を以下のようにとらえる。

1 成果

- ①人権教育だよりの発行、②人権コーナーの設置、③人権目標の設定、④道徳資料の整理・収集など、人権教育環境の基盤を整えることができた。生徒は、人権だよりや人権コーナーにより人権教育関連情報を目にする機会が増えた。「そんなことも人権に関係するのか。自分の知らない地域でこんなことがあるのか。」等の気づきを見せる生徒が増えた。自らの人権感覚と照らして重要性や難しさに向き合い、生徒相互に人権問題の諸相を話題に上らせ考えさせるなど人権に対する意識の高まりが見られた。
- 人権だよりや学級だよりで人権に関わる取組や道徳の授業の様子などを紹介したり、授業参観で道徳の授業を公開したりすることで、地域・家庭への啓発に対して、一定の成果を上げることができた。家の人にアンケートをとり、それを授業の導入や終末で活用したり、道徳の授業の内容を通信に載せ、家庭から返信をもらったりす

- ることは、生徒が保護者の考えを知る機会にもなり、家庭と学校の連携が図られた。
- 委員会活動や生徒会活動に人権教育の視点を取り入れることは、生徒の主体性と判断力や企画力を支援することで手応えのある活動が実践され、成果を生むことができた。
 - 道徳授業に重点を置いて指導することで、導入、主発問の工夫、振り返りなど道徳の学習指導に様々な工夫改善が図られた。
 - 人権集中学習では、生徒の実態に合わせた計画的な指導を行うことができた。特に参加・体験型のアクティビティは人権を身近なものとして考えるための効果を感じている。

2 課題

- 学校から家庭・地域への啓発・発信等を今後も継続して行っていく。
- 3年間で確立しつつある各委員会の活動を継続して行っていく。活動の意義を考えて取り組ませたり、各委員会からの発信を継続するなど活動の工夫を行っていきたい。
- 学級、学校の人権コーナーの定期的なリニューアルを行いたい（鮮度が下がると意識も下がる）。
- 生徒の人権感覚が磨かれる授業作りを工夫・継続していく。地域教材を生かした教材開発や地域人材を生かした授業づくり、学びの過程において、言語活動、学び合い、学習ルールなどが人権教育の基本という認識をもってさらに実践させたい。